

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193300031		
法人名	社会福祉法人岐阜県福祉事業団		
事業所名	グループホーム輪		
所在地	岐阜県飛騨市古川町是重102		
自己評価作成日	平成24年11月5日	評価結果市町村受理日	平成25年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [介護サービス情報が公開されるまでは基本情報票をご覧ください](#)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成24年12月6日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

飛騨寿楽苑に隣接する旧痴呆棟を改築した新しい設備のグループホームであり、防火・耐震の面で優れています。また、バリアフリー設計で、廊下も広くとっており、設備面はかなり充実しています。また、飛騨寿楽苑が隣接しており、連携が行いやすいことから、非常時・災害時の対応が充実していると思います。生活の支援では、できるだけ入居者に参加して頂けることを念頭においた自立の支援を行っているほか、外出もできるだけ行っております。また、家族との絆を断ち切らないよう、定期的に家族に絵手紙を発信したり、自由な面会を保障しています。地域とのつながりを保つため、地元のお店への買い物や、老人会活動への参加などを行っています。総じて、新設したグループホームらしく、活動的な点は魅力だと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、今年2月に総合福祉施設の一角に開設している。建物は、最新の耐震構造で、廊下の広い特徴のある平屋造りである。利用者は要介護1～3と軽度の認知症の人たちが多く、一人ひとりの力を引き出し、活動的な生活を支えている。日常的に外出の機会を設けたり、経験を活かした作品づくりなど、生きがいや心体機能の維持向上につなげている。管理者・職員は、対人支援の技能水準が高いのに加え、恒常的に研鑽を重ねている。そして、利用者の尊厳を守り、想いに寄り添い、あんき(安心)に過ごせるように、笑顔と情熱を持って取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者・家族が安心できるサービスを行い、それは入居者・家族の笑顔で評価しようと考えている。その理念は、毎月の会議において、職員全員で唱和している。	理念は「あんきに過ごせるグループホーム、笑って過ごせる暮らしの支援」を掲げている。月例会議で、全員で唱和し、共有している。住み慣れた地域と関わり、その人らしく、おだやかな暮らしを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回、地元の老人会(是重欣寿会の「いきいき健康教室」)に参加している。また、運営推進会議に区長だけでなく、より密着した地域単位である組長の参加も呼びかけている。ただし、まだ地域との関係を十分に構築しているとは言えず、まだまだ努力が必要。	老人会の「いきいき健康教室」に参加し、地域住民と親しく交流している。また、各種ボランティアも頻りに訪れ、作品づくり等を利用者と共に楽しんでいる。近所の保育園児とのふれあいもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の代表者に対しては、運営推進会議を通じてグループホームケアの取り組みを説明している。また、「高齢者社会を支えるシンポジウム」において、グループホーム輪の取り組みを報告した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催している。行政や地域の代表者、家族・入居者も参加し、意見をいただく機会を設けている。しかし、まだ具体的な意見は少なく、今後、グループホームの運営について理解を得ることで、より多くの意見が出されるよう努力したい。	会議には、議題により、利用者や警察官が参加している。ホームの活動・運営状況を報告し、参加者と意見を交わしている。警察官からは、捜索に関するアドバイスを受けている。ホームが地域福祉の拠点として、さらに充実できるように会議を推進している。	地域福祉の拠点としてさらに充実した会議にするためにも、地域で身近に福祉活動を行う民生委員へ会議の参加を働きかけられたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、運営推進会議に参加頂くと共に、運営基準上の解釈を巡って意見を交わしたり、あるいはグループホームの実情を伝えている。また、健康管理について、市の取り組みについてレクチャーしてもらうなど、常日頃から良好な関係を築いている。	運営推進会議に参加した担当者に、毎回、事業所の実情を伝えている。法令の運用や解釈について相談している。さらに、市の福祉政策について、情報を交換し、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	飛騨寿楽苑の規定に基づき、また、身体拘束に関するマニュアルを活用して意識を高めている。必要な施錠、センサーマットの使用については、入居者・家族にも理解を求めている。	契約書に、やむを得ない場合を除き、身体拘束の禁止を定めている。職員は、マニュアルに基づき、学習会を定期に開催し、拘束しないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止について、飛騨寿楽苑の規定に基づき、採用時に研修を受けている。全職員が知識を得て、虐待防止の視点を共有している。また、ご家族の面会は自由で、いつ、誰が面会に見えても問題無いと自負している。		

岐阜県 グループホーム輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は平成23年度まで「成年後見制度の理解」の講師を務めている。よって、まだグループホーム輪では話し合いは行っていないが、契約に際し必要な場合は成年後見制度等が活用できるような体制は整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	別添『グループホーム輪ご利用の手引き』を作成し、事前面接から契約に至るまで、事細かに説明を行っている。また、利用料金の改定なども、説明書を配布し、同意を得て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護サービス計画を作成する際には、必ず担当者から入居者・家族に意見を求めている。また、飛騨寿楽苑のCS調査も行っており、その内容もグループホーム輪の会議で検討するほか、運営推進会議においても公表している。	家族の訪問時や、電話などで意見要望を聴いている。また、年に1回、利用者と家族から、満足調査を行っている。外出を増やすことや、帰宅願望の対応を話し合い、運営に反映している。遠方に居る家族への連絡方法を検討している。	遠方家族等には、利用者の体調変化による緊急時の連絡が確実に取れるよう、家族や近くの親族を含めた連絡網の整備に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、グループホーム輪の会議を開催し、必ず管理者が参加している。また、会議の議題は職員が提案できるよう、共有のパソコンから会議資料に入力できるようにしている。会議の結果(議事録)は決裁により代表者(事業の経営担当者)に閲覧できるようにしている。	管理者は、月例会議で職員から意見・要望を聴いている。ヒアリング、事故対策、勤務調整、イベントの準備等を話し合い、運営に反映している。決裁の要るものは上層部に挙げ、職員の意見が運営に反映されるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度等により実施している。なお、法人として就業規則等を改正しなければならないこともあるが、代表者(事業の経営担当者)は法人の理事であり、また、管理者は法人の経営プロジェクトチームに参加していることから、意見を反映させやすい環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	飛騨寿楽苑の教育委員会を通して、職員に必要とされる研修を受けるようにしている。また、外部の研修にもできるだけ参加できるように、予算上の措置を行い参加して貰う様になっている。具体的には外部研修に3名が受講。介護支援専門員の研修にも計画的に受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会飛騨支部会に加入しており、管理者と計画作成担当者が交互に参加し情報交換を行っている。また、開設に先立っては、新生会や慈恵会のグループホームへ管理者等が訪問し勉強を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントを行い、本人の困っていることの要望を傾聴した。それらの記録は個別ファイルにより職員で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のアセスメントや面接を行い、暫定の介護サービス計画を作成している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用していたサービス事業所を訪問したり、担当の居宅介護支援事業所のケアマネから情報を得よう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居時点で知り合いの方の居室を近くにしたり、外出時に親しい方同士で外出できるような配慮をするとともに、共に作業を行ったりレクリエーションを行うなど、連帯できる時間や取り組みを考慮して支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	グループホーム輪でのイベント(バーベキュー大会)などではご家族も参加できるよう声をかけている。また、医療面での支援を中心に、できるだけ家族もケアに関わることができるよう協力を呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者本人が作成した絵手紙をご家族に送るなどして、絆を保つ取り組みをしている。また、今まで通っていた理髪店に通ったり、お墓参りに出かけたりと、個別の取り組みを行っている。	友人・知人・親戚の来訪があり、ゆっくり過ごしてもらえるように、場所を提供している。併設のデイサービスやショートステイ利用の知り合いとも、出会う話しが出来る機会を調整している。馴染みの理髪店や喫茶店、買い物等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時点で知り合いの方の居室を近くにしたり、外出時に親しい方同士で外出できるような配慮をするとともに、共に作業を行ったりレクリエーションを行うなど、連帯できる時間や取り組みを考慮して支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今のところ、退居者は1名でまだ入院中であり、実績は無いが、退居の際には記録は2年間保管していることや、必要に応じて相談・情報提供を行う旨を伝えてある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式も活用しているが、本人が今話している事やその人の思いに耳を傾け、その人らしい生活が送れるようにしている。	本人の基本情報は、センター方式にまとめて、全員が周知している。普段の生活や言動のなかで、気づいたことは、新たな情報として把握している。思いに寄り添い、その人らしい暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人からの聞き取り、会話の中から過去の思い出等を聞き取り記録に残している。またセンター方式を活用しアセスメントも行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録にその日の様子を記載し目を通して見ている。ケアプラン見直しは全職員で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月会議を行い、その中でサービス担当者会議を開催し、本人、家族の意見を反映し介護計画を作成している。	本人・家族の意見を聴いて、計画に反映している。職員会議では、支援経過を評価し、意見や気づいたことを取り入れ、介護計画を作成している。常に点検を繰り返し、現状に即して見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を生活記録に記載し全職員が目を通し情報を共有している。その記録を基に評価を行い、必要に応じて介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、行きつけの理容院、昔利用していた商店や自分の家や近所、会いたい友達や家族等、柔軟に対応している。		

岐阜県 グループホーム輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事(文化展、祭り、町のイベント等)、地元の老人クラブによる健康教室にも参加している。ボランティアによる絵手紙、朗読、演芸、歌などの訪問があり楽しみが持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホームに入居する際、かかりつけ医の変更等は行わず、慣れ親しんだ医者にかかれるようにしている。また、必要に応じて「健康情報提供書」を作成し、看護師の確認の下、医師へ情報提供をしている。	利用前のかかりつけ医を継続している。利用者の中には、かかりつけ医による月1回の定期訪問診療を受けている人もある。定期受診は家族が中心となって対応できるよう支援を行うほか、それぞれのかかりつけ医には、ホームでの生活状況等を知らせ、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は在宅リーダーを兼ねており、日誌は必ず目を通して見ている。また、入居者の身体の異常が見受けられる場合は看護師に相談し、処置や対応の指示を受けている。また、「健康情報提供書」の確認も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	救急搬送先は家族と相談して決めている。現在、入院した実績は1名のみ(そのまま退居)、具体的な事例は無いが、主治医や病院関係者とコンタクトをとり、できる限りグループホームに復帰できることを前提とした治療を検討していただくつもりです。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約説明時に、「重度化対応指針」を示し、重度化した場合の対応について話をしている。今後、ご家族が集まる機会を設け説明をしたり、必要に応じてサービス担当者会議を開催し、ケアの方向性を検討することとしたい。	重度化・終末期の指針を家族に説明し、同意を得ている。ホームでの生活が困難になった場合は、家族やかかりつけ医とも相談し利用者にとって最善の方法がとれるよう支援をする方針である。ホームで終末期を迎えることを選択した利用者には、かかりつけ医と家族が、適時、関わってもらうよう、看取りの体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所当時、入居者の急変や事故発生時の対応について勉強会を開催している。また、飛騨寿楽苑の教育プログラムにも応急手当などの訓練は組み込まれ、職員全員が一度はその訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に1回、避難訓練等を実施している。マニュアルも整備している。なお、飛騨寿楽苑と併設している他、グループホーム輪の敷地も飛騨市の緊急避難区域に指定されていることから、ハード面での安全性は非常に高いと言えます、むしろ地域の避難者をどのように受け入れるかの検討が重要とも言える。	毎月1回、火事や地震を想定して、自主訓練を実施している。隣接の法人施設と合同での災害訓練も、年計画で行っている。自主訓練は、利用者の避難誘導を最優先にしたマニュアルを作成し行っている。訓練に自治会の区長と組長が参加したこともある。備蓄も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月ごとの会議において飛騨寿楽苑の理念を唱和して確認している。また、言葉かけや対応については、慇懃無礼とはならないよう、その場に応じた臨機応変な言葉かけなどに配慮している。	高齢者を尊重した態度や言葉かけを行っている。話すときは、優しく馴染みのある言葉で語りかけている。利用者との、信頼関係を大切に、安心できるように対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や外出の希望など、食事の時間に入居者に意見を求めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課は決めているが、それに沿って生活するかどうかは個々の意思によっている。その日体操がしたくなければ参加しなくても良いし、寝ていたければ寝ていても良い。そのように支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の寝癖を直したり、あまりに厚着の方には声をかけて調整したり、本人に働きかけている。入浴時の衣服の選択や外出時の装いも、できるだけ自身で行えるよう支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは入居者と職員と一緒に準備して、片付けなども行っている。また、入居者が参加しやすいようなメニューに取り組んだり、また、ピクニックなどの機会を通して、食事を楽しい物と出来る様な取り組みもしている。	食事の準備や片付けを、利用者も職員と一緒にしている。職員も同じ食事を、ゆっくり時間をかけ、昔話や世間話で盛り上げながら楽しい時間を共有している。行楽弁当づくりにも、利用者に参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の機会は1日6回(朝昼夕食および朝昼夜のおやつ・お茶)あり、また、本人の嗜好に応じて食事を提供している。なお、食に関する力は残って居る方ばかりであり、食べる量などもある程度は自分で調節されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に毎食後の口腔ケアについては声かけを行っている。義歯の方は、一人を除き夜間は薬剤に浸けて対応している。		

岐阜県 グループホーム輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居時、紙パンツを使用していた方は3名みえたが、必要が無いことをアセスメントし、尿パットのみで対応することができた。基本的にはトイレでの排泄を習慣としており、失敗がある場合は羞恥心に配慮してさりげない対応をしている。	自立度の高い人が多く、見守りやさりげない声かけで、トイレでの排泄につなげている。個々のパターンに合った尿取りパットの活用で、おむつの使用を減らし、全員がトイレで排泄できるように支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ体を動かすよう働きかけるとともに、便秘がある方には朝に牛乳を飲んでいただくなどの対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	支援の都合上、週2回の入浴日および時間帯は決めてある。ただし、できるだけ普通の生活を行っていきたく考え、夕刻に入浴できるよう、また、その日に入浴を拒まれる場合は、他の人と調整を行うなどして対応している。	週に2回、夕刻に入浴ができるように支援をしている。拒む人には、順番や時間をずらしたりしている。地域の銭湯を利用し、ホームの中だけではなく、外出しての入浴を楽しんでもらう機会を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後の休息、午睡、あるいは体調が悪そうなどときには居室で休んで頂くなど、その人のリズムに応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示については、「お薬ノート」にて連絡している他、ユニット連絡票でも職員に周知をしている。医師の指示などで疑問が生じた場合は、看護師等を通じて医師に確認を行っている。用法や用量は薬箱に掲示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りや漬け物作りを行うほか、縫い物などの作業も行っている。畑作業や収穫なども、その人の生活歴に沿って役割分担している。男性には備品の組み立てや力の要る作業をお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、誰かは苑へのお使い・散歩などに出かけ、2日に1回程度は地元のスーパーに買い物へ、月に2~3回は飛騨寿楽苑のイベントに行き、その他に花見、ピクニック、銭湯などの外出、月に1~2回は地元のイベントや外出計画に沿った外出を行っている。	隣接する法人施設への用事を行うため、往復することが散歩としての機会となっている。地元の店で買い物したり、隣接する法人施設のイベントには、その都度、出かけている。その他、地域の名勝地やバラ園、温泉などへ、年間行事として出かけている。	

岐阜県 グループホーム輪

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の預り金については、本人・家族の依頼に基づき管理している。それ以外のお金は個人管理としている。なお、お金を持つことは大切だと理解しているが、それに伴うリスクも理解しており、その権衡を計ることが難しいと思っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はご本人に渡している。電話は入居者の希望に応じているが、掛けることの出来る時間などはご家族に確認している。なお、電話代は徴収しておらず、家族と電話で話すこともケアの一環として捉えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂・居間は温度計・湿度計を置き、環境に配慮している。配色も落ち着きをもてるようページュを基調としたものとし、季節に応じた花を飾ったり、入居者の作成した短歌や絵、折り紙細工あるいはタペストリーを飾っている。	広い廊下には、ソファやコタツを設け、ゆったり寛げるように工夫している。季節の花を空間の要所に飾っている。利用者が作った絵手紙、書、壁飾りなどを飾り、生活感のある共用空間となっている。空調や照明も適度に設定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときは居室で、少人数の気の合った入居者同士で過ごす場合は廊下や共有スペースで過ごせる様、廊下にソファを置くなどの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際し、居室のレイアウトはご本人・ご家族に相談している。また、ご本人の大切な人の写真などを飾ったり、場合によっては使い慣れたベッドを使用して頂くなどの対応を行っている。	使い慣れた馴染みの物を持ち込み、家族と共に配置してもらっている。家族の写真、整理タンス、ぬいぐるみ、椅子などがあり、不安を感じさせないような、居心地のよい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はフラットな構造であり、また、床はネダフォームという作りで転倒時にも衝撃を抑える工夫がなされている。		